



# FUSO REPORT

第65期 報告書

2021年4月1日から  
2022年3月31日まで

扶桑化学工業株式会社

証券コード 4368



## 日頃より格別のお引き立てを賜り誠にありがとうございます。 ここに2022年3月期<sup>\*1</sup>の当社グループの事業概況等をご報告させていただきます。

<sup>\*1</sup> 2021年4月1日～2022年3月31日

効率化による供給体制の強化、新製品開発推進等の研究開発体制強化の取り組みを進めました。さらに、就業環境の整備、ガバナンス体制の強化を進め、経営基盤の一層の強化に取り組みました。

この結果、当連結会計年度の売上高は、557億6千万円（前連結会計年度比32.1%増、135億5千1百万円増）となりました。利益面では、営業利益は150億3千4百万円（同56.1%増、54億2百万円増）、経常利益は155億9百万円（同59.1%増、57億6千3百万円増）、親会社株主に帰属する当期純利益は108億9千万円（同60.0%増、40億8千2百万円増）となりました。

### 今後の展望について

#### [ライフサイエンス事業]

鹿島事業所のリンゴ酸新プラントは2021年1月から本格稼働を開始し、年間を通じた安定操業を実現して大阪工場と並ぶリンゴ酸生産拠点となりました。メインプラントとしてフル生産体制を確立しており、2023年3月期は生産数量向上に向けて取り組んでまいります。品質面においては、国際食品安全マネジメントシステム「FSSC22000」の認証を取得するとともに、米国FDA登録を完了しました。これによりリンゴ酸の輸出は大きく伸長し、新規輸出先への継続納入と需要の旺盛な東南アジアへの販売によって更なる販売数量の拡大に努めます。

また、次世代新製品として取り組んできた有機酸のコーティング品については、2022年3月にコート果実酸M（リンゴ酸の油脂コート品）、コート果実酸C（クエン酸の油脂コート品）、コート果実酸V（ビタミンCの油脂コート品）の3製品を上市しました。今年度は菓子、健康食品などへの採用による国内での早期戦列化と海外での販売も含め、コート果実酸ビジネスの確立を推進してまいります。十三工場機能の大阪工場への集約につきましては、2021年8月に着工し、2022年末の完成に向けて順調に進んでおります。

海外では、青島扶桑精製加工有限公司が2022年上期に上海食品調味料研究開発センター（仮称）を開設します。青島のテストキッチンと併せて活用することによって、中国国内での食品添加物製剤並びに新規食品開発の



代表取締役会長  
藤岡 実佐子

代表取締役社長  
杉田 真一

### 2022年3月期の業績について

当連結会計年度における世界経済は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、回復傾向で推移しました。一方、インフレの進行と対応する金融政策の変更、ウクライナ情勢の影響、政治的な対立の顕在化等、経済への影響が懸念され、先行き不透明な状況は継続しています。日本経済は、新型コロナウイルス感染症の影響により経済活動の制限と緩和を繰り返しながら緩やかな回復傾向で推移しましたが、インフレ、円安の進行により経済への影響が懸念される状況となりました。

このような情勢下、当社グループは従業員の健康・安全を最優先に配慮した上で、感染対策を徹底して事業の継続に注力しました。加えて、成長を持続するため各事業において、拡販・価格改定等の営業体制強化、設備投資計画の推進、既存設備の維持・強化、原料の安定確保、コストダウンや

加速を目指します。扶桑タイランドは周辺国での活動を強化し、タイ国内のみならず周辺国のローカル食品での食品添加物製剤の採用増と新規開発を進めます。PMPでは、グルコン酸ソーダの販売において競合他社からのビジネスを取り返すと共に、新規案件の獲得により、前期に落ち込んだシェアを回復しました。安定供給体制を確立し、シェアの維持に努めてまいります。

生産供給体制の拡充、新製品開発と早期戦列化、並びに市場環境の変動に伴う課題への適切な対応によって、さらなる売上および利益の拡大に取り組んでまいります。

### 「電子材料および機能性化学品事業」

2020年年初から始まったコロナ禍の拡大は、当社の超高純度コロイダルシリカの主な最終顧客である半導体業界にも非常に大きな影響を及ぼしました。ウェブ会議、リモートワーク、巣ごもり生活と言った行動様式の変化に伴い半導体の需要が伸長し、当社の超高純度コロイダルシリカの販売も計画を大きく上回る結果となりました。この数年間の市場傾向が継続していくことに加え、各国家・地域が半導体に対する政策を打ち出したこともあり、当社では、当面、半導体の生産量増加が継続すると予測しております。また、半導体の微細化の進展や高積層化によるプロセスケミカルの需要量も、引き続き増加基調が継続されるものと予測しております。

当社では、この需要の増加に対応していくため、2020年11月に超高純度

コロイダルシリカの生産能力増強を決定し、BCP(事業継続計画)の観点にも鑑み、鹿島事業所に新設備を設置することとしました。2023年4月に稼働予定の本設備は、2018年に京都第一工場および第二工場に完成した超高純度コロイダルシリカ生産設備と同じ高度な技術を集結した仕様で、製造条件を高精度にコントロールする事が可能であり、益々厳しくなるお客様の品質要求に応える事ができます。また、旺盛な需要に対応するため、京都事業所第二工場の設備増強も追加で決定し、2024年4月に完工予定です。鹿島の設備と併せて、従来に対し生産能力を3割以上強化する計画としています。

研究開発におきましては、従来どおりケイ素化学を基軸として多方面への事業展開を推進しております。半導体分野では微細化、高集積化が益々進んでおり、それらのニーズに対応すべく、様々な大きさの粒子や硬い粒子、表面修飾した粒子等の製品開発を続けていきます。

半導体研磨用途以外の新分野への製品開発や今後のグローバルな研究活動への拡大を見据え、京都事業所内の研究所を、神戸市内へ移設致します。新たな研究拠点は2022年7月に開所となります。従来から活動している東京研究所と共に、今後も積極的に経営資源を投下し、当社グループのコア技術である超高純度コロイダルシリカの合成技術を活かし、新規技術の研究開発を行ってまいります。

2022年6月

## TOPICS FUSO VISION 2025 初年度の進捗報告

### 2021年度～2025年度 中期経営計画

- 売上高**  
3割アップを目指します。
- 営業利益率**  
20%以上を確保します。
- 海外売上高比率**  
50%を目指します。

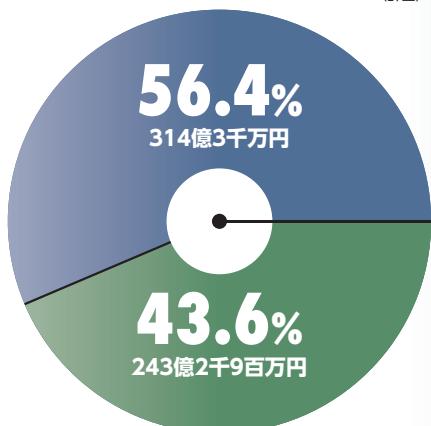
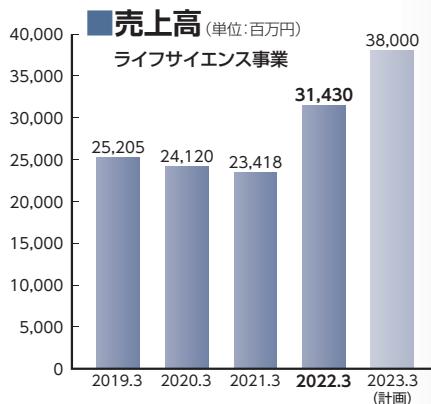




## 事業概況

## ライフサイエンス事業

## 電子材料および機能性化学品事業



ライフサイエンス事業の業績は、外部顧客に対する売上高が314億3千万円(前連結会計年度比34.2%増、80億1千2百万円増)、営業利益は49億4千万円(同49.1%増、16億2千7百万円増)となりました。

日本においては、原料価格の高騰は継続し、原料価格に連動して販売価格が変動する契約となっている製品の販売単価が上昇しました。その他の製品においても、原料価格、輸入価格の高騰に対応して販売価格の改定を随時実施しました。鹿島事業所のリンゴ酸新設備の稼働に伴いリンゴ酸の売上は輸出を中心に大幅に増加し、国内景気の持ち直しによる需要の増加に円安効果も加わり、売上高は増加しました。海外子会社においても、中国、米国の需要の回復、販売促進の取り組みによる各国

## 売上高の比率(連結)

電子材料および機能性化学品事業全体の業績は、外部顧客に対する売上高が243億2千9百万円(前連結会計年度比29.5%増、55億3千8百万円増)、営業利益は116億1千2百万円(同51.9%増、39億6千6百万円増)となりました。

半導体市場は、米中対立の長期化や原材料不足による供給不安の懸念材料はあるものの、デジタル化の進展に伴い、引き続き堅調に推移しています。当社主力製品の超高純度コロイダルシリカは、半導体の微細化の進展および需要の増加に伴い採用は増加しています。下期より原料価格が大幅に上昇し、加えて世界的な海運の混乱は輸出に大きく影響を及ぼしましたが、販売価格の改定と円

でのシェアアップ、円安による円換算後の増加効果もあり、セグメントの売上高は前連結会計年度を上回りました。営業利益は、世界的な原料価格の高騰や円安による輸入価格の上昇の影響があったものの、売上高の増加に加え、新規設備の減価償却費の減少、稼働率向上による製造原価の低減効果により、前連結会計年度を上回り増収増益となりました。



安効果により売上高は増加しました。在宅勤務の普及によるトナー需要減退の影響を受けたナノパウダー需要は、回復傾向で売上が増加に転じ、セグメントの売上高は前連結会計年度を上回りました。営業利益は、原料価格が大幅に上昇し製造コストに大きく影響があったものの、売上高の増加、新規設備の減価償却費の減少、増産によるコストダウン効果により、前連結会計年度を上回り増収増益となりました。



## サステナビリティ委員会の設置

●2021年12月

サステナビリティ基本方針の制定及びサステナビリティ委員会の推進体制を決議。

### MISSION

企業の使命

技術を通じて社会の課題解決に努め人々の暮らしの豊かさの向上・持続的な未来に貢献し続ける

### VISION

FUSOの目指す姿

社業の繁栄によってあらゆるステークホルダーの豊かさを築く

### サステナビリティ基本方針

当社はグローバルニッチ企業のフロントランナーとして、その応用性と技術力で人々の暮らしの多様なシーンにおいて活躍し続けています。食品をはじめとする各産業界に貢献する果実酸とその誘導体、これからの社会における半導体産業に不可欠なシリカ関係製品群を提供し、未来に向け発展的な基盤を築いています。

社は「限りなき進歩と創造」により取り組んできた絶え間なき向上心をもとに持続的社會に貢献し、これからも永続的な企業価値の向上をはかってまいります。



## 企業版ふるさと納税

●2021年10月

福知山市へ寄付。救急車の更新、新型コロナウイルス感染防止対策の機材購入に貢献。



▲当社のロゴの入った救急車



## 大阪市女性活躍リーディングカンパニー 最高位の『二つ星』認証

●2022年1月

制度面の整備に加え、実績が伴う企業に認証される『二つ星』の認証取得。



## 『健康経営優良法人』 認定取得

●2022年3月

FUSO健康宣言「良い製品は体と心の健康から生まれる」を内外に公表し、社員の健康に関する様々な施策実施。



2022  
健康経営優良法人  
Health and productivity



## 連結財務諸表(要旨)

## 連結貸借対照表

(単位:百万円)

科 目	当連結会計 年度末 (2022年3月31日現在)	前連結会計 年度末 (2021年3月31日現在)
<b>資産の部</b>		
流動資産	52,078	45,131
現金及び預金	24,236	25,594
受取手形及び売掛金	14,886	10,546
商品及び製品	7,972	6,390
仕掛品	764	482
原材料及び貯蔵品	3,240	1,667
その他	976	449
固定資産	39,931	30,901
有形固定資産	35,290	25,924
建物及び構築物(純額)	9,651	10,022
機械装置及び運搬具(純額)	7,049	8,117
土地	6,902	6,891
建設仮勘定	11,247	453
その他	439	438
無形固定資産	1,904	2,186
投資その他の資産	2,736	2,790
投資有価証券	1,030	1,161
長期前払費用	492	225
繰延税金資産	910	1,113
その他	302	289
<b>資産合計</b>	<b>92,009</b>	<b>76,032</b>

科 目	当連結会計 年度末 (2022年3月31日現在)	前連結会計 年度末 (2021年3月31日現在)
<b>負債の部</b>		
流動負債	14,667	7,836
支払手形及び買掛金	3,039	2,027
未払金	1,883	1,495
設備関係未払金	4,900	1,067
未払法人税等	3,219	1,588
その他	1,623	1,656
固定負債	2,038	2,026
繰延税金負債	187	178
退職給付に係る負債	1,555	1,534
その他	295	313
<b>負債合計</b>	<b>16,706</b>	<b>9,862</b>

<b>純資産の部</b>		
株主資本	72,225	64,271
資本金	4,334	4,334
資本剰余金	4,820	4,820
利益剰余金	64,183	55,121
自己株式	△1,112	△4
その他の包括利益累計額	3,077	1,898
<b>純資産合計</b>	<b>75,303</b>	<b>66,169</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>92,009</b>	<b>76,032</b>

(注)記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しています。

## 連結損益計算書

(単位:百万円)

科 目	当連結会計年度 (2021年4月 1日から 2022年3月31日まで)	前連結会計年度 (2020年4月 1日から 2021年3月31日まで)
売上高	55,760	42,209
売上原価	32,679	25,861
売上総利益	23,081	16,347
販売費及び一般管理費	8,046	6,715
営業利益	15,034	9,632
営業外収益	481	123
営業外費用	6	9
経常利益	15,509	9,746
特別利益	227	13
特別損失	23	30
税金等調整前当期純利益	15,713	9,729
法人税等	4,823	2,921
当期純利益	10,890	6,808
親会社株主に帰属する当期純利益	10,890	6,808

(注)記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しています。

## 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科 目	当連結会計年度 (2021年4月 1日から 2022年3月31日まで)	前連結会計年度 (2020年4月 1日から 2021年3月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	10,199	12,820
投資活動によるキャッシュ・フロー	△9,375	△2,620
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,882	△1,639
現金及び現金同等物に係る換算差額	682	191
現金及び現金同等物の増減額	△1,375	8,752
現金及び現金同等物の期首残高	24,835	16,083
現金及び現金同等物の期末残高	23,460	24,835

(注)記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しています。

### Point 1

(連結貸借対照表)

当連結会計年度末の総資産は、前連結会計年度末に比べ159億7千7百万円増加し、920億9百万円となりました。これは主に、売掛金、棚卸資産、鹿島事業所の設備投資等に係る建設仮勘定の増加によるものです。

負債については、前連結会計年度末に比べ68億4千3百万円増加し、167億6百万円となりました。これは主に、設備関係未払金、未払法人税等の増加によるものです。

純資産については、前連結会計年度末に比べ91億3千3百万円増加し、753億3百万円となりました。これは主に、自己株式の取得を行ったものの、利益剰余金の増加額がこれを上回ったためです。

### Point 2

(連結損益計算書)

リンゴ酸や超高純度コロイダルシリカの販売物量大幅増加に加え、各種原材料価格の高騰を受けた価格改定の実施や円安効果により、売上高は前連結会計年度を上回りました。

営業利益については、両事業部門での売上増に加え、新規設備の減価償却費減少や、稼働率向上による製造原価の低減・コストダウン効果により、前連結会計年度の実績を大幅に上回り、過去最高益となりました。

### Point 3

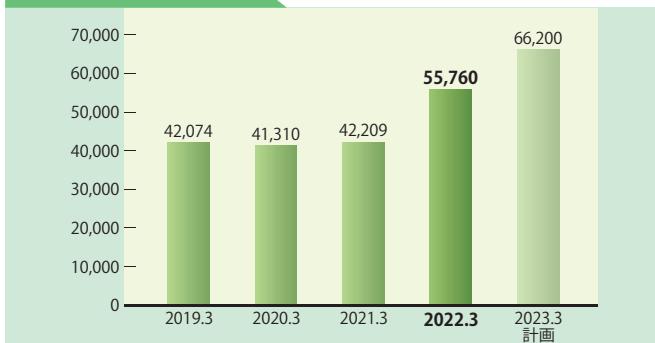
(連結キャッシュ・フロー計算書)

当連結会計年度末における連結ベースの現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、税金等調整前当期純利益および減価償却費の発生により取得した資金を有形固定資産の取得、法人税等の支払、配当金の支払に充てた結果、前連結会計年度末に比べ13億7千5百万円減少し、234億6千万円となりました。

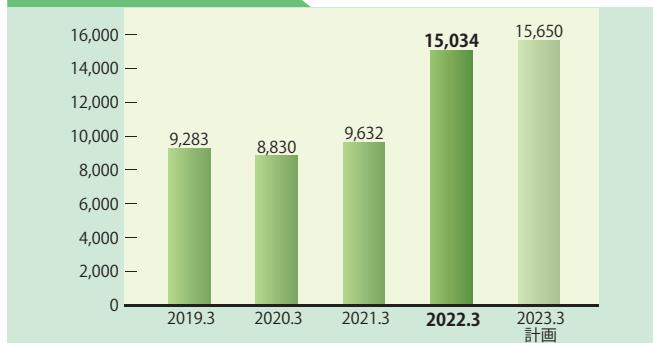


## 業績ハイライト(連結)

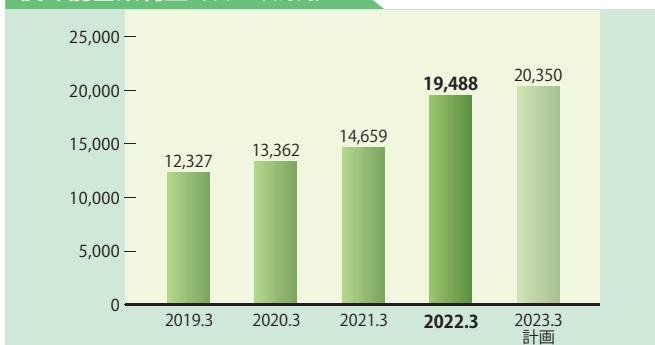
売上高 (単位: 百万円)



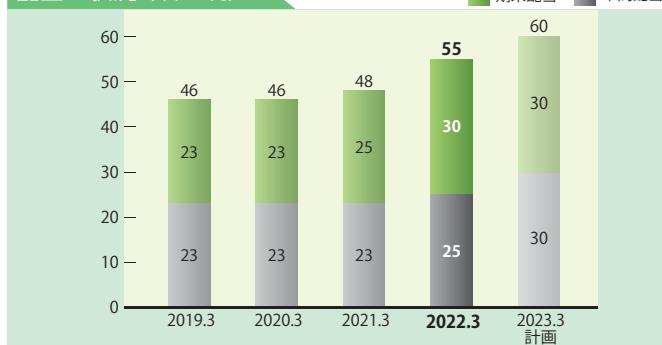
営業利益 (単位: 百万円)



償却前営業利益 (単位: 百万円)



配当の状況 (単位: 円)



## 業績の推移

	2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期(計画)
売上高(百万円)	42,074	41,310	42,209	55,760	66,200
営業利益(百万円)	9,283	8,830	9,632	15,034	15,650
経常利益(百万円)	9,854	8,954	9,746	15,509	15,700
親会社株主に帰属する当期純利益(百万円)	6,881	7,014	6,808	10,890	10,800
償却前営業利益(百万円)	12,327	13,362	14,659	19,488	20,350
1株当たり当期純利益(円)	193.81	197.56	191.75	308.08	306.43

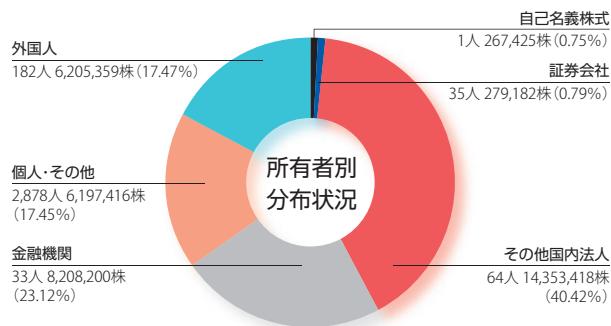
## 株式の状況

(2022年3月31日現在)

- 発行可能株式総数：95,000,000株
- 発行済株式の総数：35,511,000株  
(自己株式が267,425株含まれています。)
- 株主数：3,193名

## 株主の分布

(2022年3月31日現在)



## 大株主

(2022年3月31日現在)

株主名	持株数	持株比率
株式会社壽世堂	5,596,265	15.88%
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	3,547,000	10.06%
帝國製薬株式会社	3,328,000	9.44%
赤澤庄三	3,085,965	8.76%
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	2,312,400	6.56%
大阪中小企業投資育成株式会社	1,490,625	4.23%
有限会社帝産	1,375,000	3.90%
株式会社日本触媒	1,186,500	3.37%
JP Morgan Chase Bank 385174	651,300	1.85%
株式会社百十四銀行	596,400	1.69%

・持株比率は、自己株式数を控除して計算しています。

## 株価の推移





## 会社概要

- 商号 扶桑化学工業株式会社
- 創業 1952年(昭和27年)
- 設立 1957年6月24日(昭和32年)
- 資本金 43億3,404万7,500円
- 本社 〒541-0043 大阪府大阪市中央区高麗橋四丁目3番10号  
(日生伏見町ビル新館5階)  
TEL.(06)6203-4771(代)
- 東京本社 東京都中央区日本橋小舟町6番6号(小倉ビル7階)
- 事業所
  - 新大阪事業所 大阪府大阪市淀川区新高二丁目6番6号
  - 京都事業所
    - 京都第一工場 京都府福知山市長田野町一丁目5番地
    - 京都第二工場 京都府福知山市長田野町二丁目8番地
  - 鹿島事業所 茨城県神栖市東和田20番地
  - 東京研究所 神奈川県川崎市高津区坂戸三丁目2番1号  
(かながわサイエンスパークR&D棟 A206~A208)
  - 大阪工場 大阪府堺市西区築港新町三丁目27番地10
  - 十三工場 大阪府大阪市淀川区野中北二丁目10番30号
- 主要子会社
  - 青島扶桑精製加工有限公司(中国)
  - PMP Fermentation Products, Inc.(アメリカ)
  - FUSO(THAILAND) CO., LTD.(タイ)

## 役員

- 名誉会長および取締役 (2022年6月24日現在)
  - フアウンダー 名誉会長 赤澤 庄三
  - 代表取締役会長 藤岡 実佐子
  - 代表取締役社長 杉田 真一
  - 専務取締役 政氏 晴生  
(電子材料事業部長)
  - 専務取締役 谷村 隆史  
(国際事業部長)
  - 取締役 梶本源 樹  
(ライフサイエンス事業部長 兼 営業開発本部長 兼 営業企画部長)
  - 取締役 藤岡 篤  
(企画開発室長)
  - 取締役 百嶋 計 (社外・独立)
- 取締役 監査等委員
  - 木下 善樹(社外・独立)
  - 平田 文明(社外・独立)
  - 江黒 早耶香(社外・独立)
- 執行役員 (2022年7月1日予定)
  - 執行役員 宮本 典和  
(ライフサイエンス事業部 ライフ生産本部長 兼 新大阪事業所長)
  - 執行役員 伊藤 裕之  
(管理本部長)
  - 執行役員 山川 恭弘  
(電子材料事業部 電子材料本部長 兼 事業推進室長)
  - 執行役員 田中 寛之  
(電子材料事業部 電材生産本部長 兼 生産部長 兼 京都事業所長)
  - 執行役員 二宮 主税  
(青島扶桑精製加工有限公司 中国扶桑グループ総代表)

- 事業年度 毎年4月1日から翌年3月末日まで
- 定時株主総会 毎年6月開催
- 基準日 定時株主総会 毎年3月31日  
 期末配当金 毎年3月31日  
 中間配当金 毎年9月30日  
 そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日

- 株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号  
 三井住友信託銀行株式会社

- 株主名簿管理人事務取扱場所 大阪府大阪市中央区北浜四丁目5番33号  
 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部  
 (郵便物送付先) 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号  
 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部  
 (電話照会先) ☎0120-782-031

(インターネットホームページURL) <https://www.smtb.jp/personal/procedure/agency/>

#### 【株式に関する住所変更等の届出およびご照会について】

証券会社の口座をご利用の場合は、三井住友信託銀行株式会社ではお手続きができませんので、取引証券会社へご照会ください。

証券会社の口座のご利用がない株主様は、上記の電話照会先にご連絡ください。

#### 【特別口座について】

株券電子化前に「ほふり」(株式会社証券保管振替機構)を利用されていなかった株主様には、株主名簿管理人である上記の三井住友信託銀行株式会社に口座(特別口座といいます)を開設しています。特別口座についてのご照会および住所変更等の届出は、上記の電話照会先をお願いいたします。

- 公告の方法 電子公告とする(<https://fusokk.co.jp>)

- 上場金融商品取引所 東証プライム

#### 【利益配分に関する基本方針及び配当】

当社は、剰余金の処分につきましては、長期にわたり安定的に株主の皆様へ報いるという基本方針のもと、企業体質の強化ならびに今後の事業展開を勘案して行うこととしております。内部留保金につきましては、将来の事業成長のための設備投資および研究開発に充当してまいります。

第65期の期末配当金につきましては、当期の業績を踏まえ、1株につき30円とさせていただきます。これにより既に実施済みの中間配当金25円を加えた年間配当金は、前期と比べ7円増配の、1株につき55円となります。次期の年間配当金につきましては、1株につき60円(内、中間配当30円)を予定しています。

**FUSO**  扶桑化学工業株式会社

<https://fusokk.co.jp>

VOC  
FREE T&K

VOC(揮発性有機化合物)成分フリーの  
インキを使用して印刷しました。